

戦前の出版検閲を巡る同時代の著作は少ない。
本資料集の刊行は出版検閲を研究する上で大きな意味を持つ。

出版警察史

— 検閲・発禁関係資料集

全四・別巻
【編集復刻版】

監修・解題—安野 一之

(早稲田大学政経学院現代政治経済研究所研究協力者)

造 本—B6上製(別巻のみA5並製)・総約1,400頁

価 格—76,000円(配本毎・別巻のみ分売可)

—収録資料—

【第一回配本】2021年4月 配本揃価 34,000円 ISBN978-4-910363-34-9

第一巻 (448頁)

『出版警察 [(図書出版ノ心得)]』(山田一隆、文明社、1914年)

第二巻 (168頁)

『実務上より見たる出版法略義 附. 出版関係法令集 [無削除版]』

(成田総一郎、丸ノ内出版社、1933年)

【第二回配本】2021年10月 配本揃価 42,000円 ISBN978-4-910363-35-6

第三巻 (320頁)

『改正出版法並新聞紙法の実際智識』(成田総一郎、自治刊行社、1935年)

第四巻 (176頁)

『出版警察法概論』(生悦住求馬、松華堂書店、1935年)

別巻 (約270頁) ISBN978-4-910363-36-3 (別巻のみ分売可 8,000円)

* 解題、総目次

附録資料一、「講義 出版警察」(久保田政周、『警察協会雑誌』36～39号、1903年5～8月)

附録資料二、『現下の出版物取締に就いて』(三島誠也、東京出版協会、1931年)

附録資料三、『出版物を通じて見たる思想界の現状及思想対策概論 其の1・2

(思想研究資料第118・119号)](菅太郎、海軍省教育局、1934年)

(特別附録資料)「図書課事務分担表(昭和8年1月末日現在)」(「内務省官制中ヲ改正ス」内務省警保局図書課、1933年5月15日)



出版警察史

— 検閲・発禁関係資料集

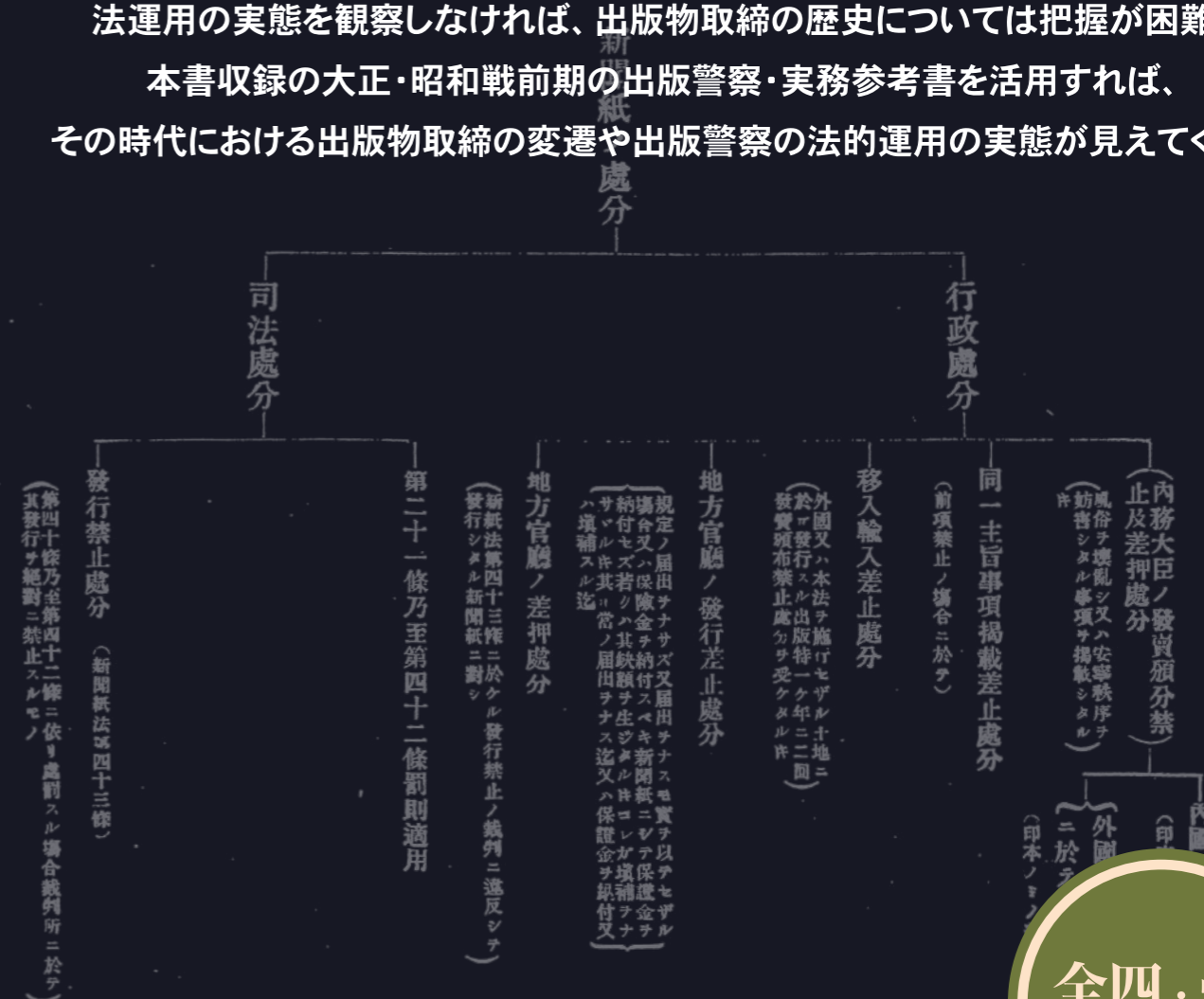
実定法上、明治半ばから昭和20年まで出版法規はほぼ変わらなかったが、

内務省は時に応じて段階的に「行政解釈」を変更する。

法運用の実態を観察しなければ、出版物取締の歴史については把握が困難。

本書収録の大正・昭和戦前期の出版警察・実務参考書を活用すれば、

その時代における出版物取締の変遷や出版警察の法的運用の実態が見えてくる!!



全四・別巻
【編集復刻版】

類縁書のご案内

『内務省納本月報』
— 帝国日本の「全国」書誌編成【全21巻】

編・解題—郡司 良夫
造 本—A5判・上製函・総9,726頁
揃 価—399,000円(各巻19,000円)

【増補改訂普及版】
雑誌新聞発行部数事典
— 昭和戦前期 附. 発禁本部数総覧【全2巻】

編・解説—小林 昌樹
造 本—A5判・並製・総662頁
揃 価—22,000円

内務省納本月報
— 帝国日本の「全国」書誌編成

雑誌新聞発行部数事典
— 昭和戦前期 附. 発禁本部数総覧

金沢文圃閣 Kanazawa Bumpokaku
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別 052/07/4000

本書は、出版警察関係者による
業務マニュアル・教科書・実務書であるとともに
出版・新聞メディア人の取締られないための実用書でもあった。

出版物取締をめぐる攻防の最前線が ここには詰まっている!!

